

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 12月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201025
法人名	メディカルケアサービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム三保松原
所在地 (電話番号)	静岡県清水区三保2432-2 0543-37-0735
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月5日

【情報提供票より】(19年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤	人, 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り ACLタイル張り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	850 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月15日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人有原医院 宮城島歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な三保松原に立つホームである。法人のバックアップを受けつつ近隣との関わりや利用者のADLの維持等にホーム独自の工夫と試みの姿勢が窺え、サービス向上に積極的に取り組んでいる。殆どの家族に「職員全員が生き生きと働いている」と言わしめる所以はこの辺りにありそうである。法人が制度にすばやく対応して契約書や重要事項説明書等適切に改訂していたが、ホームでも昨年度の指摘事項の改善やグループホームの基本指針に沿った理念の創出に全職員で取り組んでおり、法人の意識をホームがしっかりと受け止めていることに感銘を受けた。今後も、惰性に流れず、生き生きと利用者の支援をされるようお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価時、介護計画の細やかな見直し、確実な情報伝達、口腔ケア、市町村との連携について改善をお願いしたが、今回評価において真摯に取り組んでいただいたことが確認できた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各ユニットリーダーが職員の意見を参考にして記述しており、それぞれのユニットの特徴が表れていた。その段階で既に多くの気づきがありその点も記述されており、職員の利用者に対する思いを感じる事が出来た。今後、職員で話し合いその思いを実現していただきたい。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は既に6回開催されており、グループホームの役割や認知症について理解を深め、運営の状況を知っていただくよう取り組んでいる。委員からは地域の情報を得ることが出来、情報の中で利用者が参加できる催しには積極的に参加している。ホームの行事に委員が知人を同行して協力してくれるなど会議が充分機能しており利用者へのサービスの向上に繋がっている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人が実施する年2回の家族アンケートにより、家族や利用者の意見を収集している。しかし管理者は家族には遠慮があるのではとの配慮から家族訪問時に必ず近況報告することを職員と共に励行している。家族からは「必要なことを伝えてくれ、生活しやすいように改善してくれる」、「少しのことですぐに相談に乗ってくれる」との反映の確実さに対する感謝の言葉が見られた。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に住宅は少ないが、その中で機会を捉えて交流できるよう取り組んでいる。行事に近隣の方へ声かけしてお手伝いをお願いしたり、老人施設の利用者を招待したり、地域のボランティアに参加していただいている。小学校の児童が運動会の招待状や手紙を届けてくれたり、幼稚園児が花を届けてくれたり、利用者に喜びをもたらしている。また、ホームのお祭りに向かいのコートでテニスをしている方も参加していただくよう働きかけるなど、積極的に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念は地域密着型の指針を受けて認知症であっても地域の中で人間の尊厳を大切に生活を送ることを重要事項説明書に明記し、契約書の前文にも謳っている。ホームでは「さまざまな機会を通して、地域の人々とのふれ合いを大切にします。」の一文を運営理念に盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアはホームの建物の中だけで終始するものではないことを意識していただくよう日頃から職員に申し伝えている。新しい職員にも先ず理念を認識するために、ユニット会議の折等に暗誦の機会を取っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家は少ないが、散歩や買い物の際に挨拶や会話を心がけている。小学校の運動会や発表会に招待されたり、飼いウサギが縁で幼稚園児が園庭に咲いた花をタクシーに乗って届けてくれたりする。ホームの行事には近隣の方や向かいのコートでテニスをしている方も参加して楽しい交流の場となった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人、管理者は評価の意義を深く理解しており、前回調査で指摘した改善事項は見事に取り組み改善されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は既に6回開催されており、主にホームの経過報告と委員からの地域の情報報告からなり、折々に認知症について、終末期ケアなどの話もしている。いただいた情報で利用者が参加できる催しには極力参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関する相談や、地域包括センターでの会議に出席して情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回健康状態と金銭管理の報告を郵送している。緊急の連絡等は電話にて行っており、家族の面会時には近況の報告をしている。	○	事業所向けの松ぼっくり通信が発行されているが、楽しい記事、家族が喜ぶような記事が掲載されているので是非家族の元へ届けていただきたい。職員の異動等について家族への報告をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が年2回家族アンケートを実施して家族や利用者の意見を収集している。家族からは「必要なことを伝えてくれ、生活しやすいように改善してくれる」との反映の確実さに対する感謝の言葉が見られた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職については利用者のダメージを来さないよう各利用者の状況に応じた対応をしている。新しい職員には同行をつけてホーム内の状況把握が出来るよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の個別評価システムにより職員の意識向上を図っている。法人本部の新入職員の研修資料を利用して勉強会を行なっている。外部研修に参加した場合は全職員に共有できるよう報告の場を持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部職員は他ホームを見学し、交流の機会を持ち情報の交換をしている。	○	職員が他ホームと交流し、外部に目を向けることによる気づきの持つ意味は大きい。勉強会やネットワーク作りにより利用者へのサービスの向上に繋げていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰りのお試し入居を実施しており、利用者や家族がホームの雰囲気を体感し、徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを深く探り、喜びや苦しみを共感している。人生の先輩として学ぶことは多く、日々の介護の中でも利用者の歩行距離が長くなったり、洗濯物が上手にたためるようになる姿を見る喜びは職員の大きな励みとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情からその思いを汲み取るように努め、全職員でその情報を共有し、本人にとってどのように暮らす事が最良かを家族を交え検討している。毎日の日誌では何をしたかではなく、入居者一人ひとりの言葉や表情、その行動を日記風に記入し本人の思いを介護計画に生かす様取り組んでいる		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意見を聞き、一人ひとりのその時点に沿った介護計画を立てるよう職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを行うと共に、安定している利用者の場合でも月に1度のユニット会議では、本人の希望や家族の意向を確認しながら、又状態に変化が起きた場合にはその都度検討・見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院等の支援は柔軟に対応し、要望も臨機応変に対応し個々それぞれの満足度を高めるように努めている。看取りの際の利用者の家族や友人の宿泊などにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との連携体制も整っており、2週間に1度の医師の往診や2週間に1度の訪問看護が交互に行われ、利用者の健康状態のチェックが行われている。又家族と協力し通院介助を行っており、適切な医療を受けられる様支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を大切に、家族・管理者・スタッフ・提携医で十分話し合い、終末期における健康管理や急変時の対応などを説明し、納得して戴いた上で支援に繋げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等の保管場所を決め、プライバシー保護を徹底している。声かけや誘導は利用者の誇りを損ねない対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを見守り、本人の気持ち・生活態度・能力度合いによって、その人らしい暮らし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にも役割があり、職員と一緒に楽しそうに野菜を刻んだり準備し、職員と同じテーブルで食事を取り、後片付けをするなど、食を通じた様々な取り組みがなされている。調理は専従のスタッフが朝夕のご飯・味噌汁・おやつ以外作っており、職員はその分介護に集中出来る。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきに入浴して戴いているが、本人の体調・気分に合わせて中止したり、続けて入浴やシャワー浴をして戴く事もある。	○	入浴したい日、希望する時間に入浴するには難しい現状があるが、個別にあった入浴支援の工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの過去の生活歴を尊重し、その人なりに出来る仕事の役割や将棋指しや縫い物等の趣味を支援している。又感謝の気持ちも伝えるよう心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出して陽に当たることや美味しい空気を吸う事は身体的にも大事な事、晴れた穏やかな日には散歩、買い物、ドライブ等を行っている。散歩の出来ない時にはテラスに椅子を並べ日光浴を行う事もある。利用者の一人は近々に以前働いていた時の集まりに参加出来ると楽しそうに話していた。	○	利用者の馴染みの店や場所へ出かける機会なども作り、家族と連携し利用者が更に外出を楽しめる支援に取り組まれたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口横に階段があり、新しく入居した人や場所の見当識がある利用者に対して安全の為、鍵をかけている。	○	鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていく事が求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、いろいろな状況に対応出来る様訓練している。日中対応の避難訓練もホーム独自で行っていた。消防・自治会等、近隣地域との連携にも取り組んでいる。	○	非常品の備蓄もされており、様々な災害に対応できるよう検討中との事であり、より一層の充実をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部に栄養士がおり栄養価の計算された献立が送られて来る。各ホームで食材や調理法は必要時適切に変更され記録も残されていた。調理も専門職員がおり味付け・盛り付け・食品の形態(キザミ・ミジン)など十分な配慮がなされていた。食事摂取量はチェックされ記録もある。	○	水分はきちんと摂取され確認もされているが記録はない。高齢者の水分確認は事故防止につながるので記録も残されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地よい環境が整備され、書画や行事の写真などが飾られ、利用者家族によって贈られる竹細工は、季節に合わせて交換されて落ち着いた雰囲気になっている。換気は適時行われ、気になる臭いやよどみは感じられない。光も強過ぎず穏やかである。気の合った利用者同士が自由に過ごせるコーナーがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出深い品物や家具が置かれ、自作の作品や写真が飾られ居心地良く配慮されていた。		